

サトウキビ生産においては、担い手の高齢化と後継者不足による生産者の減少が深刻で、収穫作業を中心に機械化が進んでいるものの、植付に伴う作業負担は依然として大きく、低収な株出し栽培も増えています。そのため回数を重ねた株出し栽培でも安定して多収で、ビレットプランタでの植付けにも適性の高いサトウキビ新品種RK10-29を育成しました。

④ → ② → ③ を3回繰り返す

【事業・課題名】イノベーション創出強化研究推進事業(生研支援センター・JPJ007097) 課題番号 02024C「持続的なサトウキビ生産を可能とする連続株出し多収品種と次世代機械化・貫栽培技術の開発」等、沖縄農業を先導する育種基盤技術開発事業(沖縄県農林水産部)